

学年通信

2026年  
05月20日

# 仲間

～ 最終章 俺たちの背中を見ろ ～

卒業まで153日

第010号

文責 稲葉浩志

人は弱い生き物だからこそ「仲間」の存在が大切

## 人は誰かのせいにしたくなる 人は何かのせいにしたくなる

みんなは人って「弱い生き物」だと思いませんか？先生は自分のことを弱い人間だと思っています。

何かに挑戦したときとか、行動を起こしたときにうまくいかないことってたくさんあると思います。そんな時にしつついその時の「感情」に押し負けて、「誰かのせい」「何かのせい」にしたくなったりしませんか？例えば、部活の大会で負けた時に「審判が悪い」とか「足が痛かった」と思うてしまうことがありますか？スポーツだけじゃなくて日常の中でも「今日は疲れていたから」とか「先生に怒られたあとだから」とかそれぞれ何かしらの経験はあると思います。でも、「誰かのせい」にしたり、「何かのせい」にしたりしても何も前に進まないんです。そんなことは分かっているのにつつつい口が先に動いてしまう、態度に出してしまうのも人らしさだとは思いますが、その瞬間の悔しかったり、失敗して恥ずかしかったりした感情をどうしていいのかわからないからぶつけてしまうものです。また、「何かのせい」にすることで、自分が「できない理由」を作っているのです。「できない理由」があればそれを理由に「頑張らなくていい」と楽な道を選ぼうとしているからです。人は「楽」を少しでもしたいから、すぐに逃げてしまうのです。だから人は弱い生き物なのです。

先生も今までの経験のなかで「何かのせい」にしたくなったことがあります。これは大人になってもあるものなんです。先生になったばかりの頃です。バスケの指導者として、選手と毎日練習に明け暮れていました。大会で勝てないにつつつい「あの時の審判が…」なんて気持ちがよぎってしまう時がありました。ふとした時に「自分は何か間違っていることはなかったのか」と考えるようになりました。悔しさを噛みしめるのです。そうすると「準備」の大切さに目が向くようになりました。「あの失敗を繰り返さないようにする」ためにはどうしたらいいのか今できることはないのかと考えるようになりました。

## 人はないものねだりをする

みんなは「ないものねだり」という言葉を知っていますか？また「ないものねだり」をした事がありますか？他人の才能や他人の置かれている環境に嫉妬したり、羨ましい気持ちから「ないものねだり」をしたこともあると思います。先生はこれも人の弱さだと思います。「もし〇〇だったら」と考えてしまう瞬間って誰しも経験があると思います。これは自分ダメなところと、相手の良いところを比べてしまい「いいな…」なんて落ち込む原因を自ら作ってしまうことにつながります。「自分になくて相手にある」ことで戦うから苦しくなるんです。自分にあって相手にないものだって必ずあります。これをしっかりと見つけて強みにできるかというのはこの先もとても重要な力となると思います。学級だって一緒です。長縄を練習しているときに隣で跳んでいる学級がいい記録の歓喜している姿を見て「あの学級は跳べていいな…」と自分たちで落ち込んだりしていませんか？その時間がもったいと考えるようになってほしいです。

これも先生の経験になってしまうのですが、なかなか勝てなくて困っているにつつつい「あれぐらい速い選手がいたら…あれぐらいシュートが入る選手がいたら…」なんて考えてしまったものです。でも、あるとき「この選手の強さは…この選手の特技は…これを組み合わせると…」なんて考えるようになりました。するといつの間にか勝てることの方が多くなっていました。周りのいいところばかり見ていると、自分の周りにあるいいところが見えなくなってしまうのだと反省しました。今は自分の周りにあるいいところを大切にしていかななくちゃいけないなと考えるようになりました。この学年だってほかの学年よりもいいところがたくさんあると思っています。だからこそみんなを誇りに思い、みんなの「背中」を後輩や他学年の先生に見てもらいたいと思ったのです。

最後に「人は弱い生き物」と悪い面ばかりを書きました。でも、人は弱いからこそ「仲間」を作るという方法にたどり着いたのです。一人ではできないことも仲間がいれば乗り越えられる。一人では思いつかないことも仲間と考えれば知恵が出る。そんな集団で苦勞を重ね、喜びを分かち合い人は成長してきたのです。人を頼ることは恥ずかしいことではない、人に自分の弱さや失敗を見せることは恥ずかしいことではありません。それこそが「仲間」として絆を深めていくきっかけかもしれないのです。

学級がうまくいっているのかどうかはみんなが一番感じているはずですが、その時により多くの人が「前へ進むこと」に気持ちが向くかが大切です。「今さらそんなこと…」ではなく、「今からでもやってみよう！」と前向きな気持ちの人が多ければ必ずいい方向へ進むはずですが、本番まで時間は限られています。この最後の貴重な時間を最後まで諦めずに戦い抜けるかが学級のかたまりであり、成長なのではないでしょうか。先生たちはみんなを信じています。